

林業の成長産業化に向けて 「女性の力」を活かすための検討会を開催

人工林の多くが本格的な利用期を迎える中で、豊富な森林資源を循環利用し、林業の成長産業化の実現を図るこ

とが喫緊の課題となっています。一方、山村地域の多くは、人口の減少・高齢化が著しい状況となっており、今後、森林を適切に管理し、

ていくこととしています。主な意見は、次のとおりです。

強みがあり、一方、女性は水平方向への広がりの方に強みがある。男性と女性が相互に補完し合い両立させていくことが大切。

● 材価に左右される林業経営の実態や、林業労働の厳しさ、高い労働災害発生率、女性の就業希望者と受け入れ先のミスマッチなどが、林業に「女性の力」を活かして行く上での重要な課題。

● 安全に対する意識の向上、軽くて動きやすい防護衣の開発などを通して、女性が働きやすい職場をつくり、職業としての魅力を高めていくことが、女性のみならず、男性にとっても林業を働きやすい魅力ある職場にしていくことにつながる。



林業等に携わる女性の皆様との意見交換

林業生産性の向上を図るためには、「女性の力」を最大限に活かす取組を推進するなど、意欲と能力のある人材を確保・育成することが重要となっています。

このため、平成26年8月21日、林野庁において、第一線の現場で活躍されている女性作業員、女性林業経営者、シカ等の駆除を担っている女性狩猟者、近年各地に設立された「林業女子会」等、森林・林業の現場等で様々な活動を展開している女性にお集まり頂き、林業の成長産業化や山村地域の活性化に向けて、女性の力を活かすための取組等について意見交換を行いました。林野庁では、引き続き、「女性の力」を活かすための考え方や取組を検討し

● 林業に関わる女性の役割は、かつては労務として男性の労働を補完する立場であったが、現在、女性は林業に様々な立場・形で関わっている。

● 「林業のための女性」ではなく「女性のための林業」という視点や、林業を木材生産だけに限定した小さい枠にはめ込まないで、地域の問題として捉えるという視点に立ち、森林や林業の可能性を広げ、山村地域を豊かなものにしていくことが大切。

● 林業に「女性の力」を活かすためには、どの分野でどのような活動を通して何を実現していこうとするのか、観念論にならないよう具体的に考えていくことが必要。

● 「女性の力」とは、一度に様々なことを色んな角度から考えることができるマルチタスク能力、クチコミなどを通じたネットワーク形成やマーケティングの力、デザインのセンス、人を育てていく上での母親的な対応の仕方などがある。

● 男性はタテ方向の集中力・実行力に

出席者	所属等
石川 晴子	豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク21会長、静岡県林業振興課
糸川 結花	林業女子会@東京、全国森林組合連合会
岩井 有加	株式会社 古川ちいきの総合研究所
小田 ちはる	北郷女性林研グループ 代表
鈴木 香南子	根羽村森林組合
多田 知子	NPO法人木づかい子育てネットワーク
中島 彩	有限会社ウッズ
濱崎 康子	株式会社はまさき
原 薫	株式会社柳沢林業 社長
松浦 友紀子	女性のハンティングネットワークTWIN代表、独立行政法人森林総合研究所研究員
本戸 三保子	カネイ林業、林業女子会@静岡
山崎 靖代	専業林家